事業所名	きりんのあくびkidsみと	支援プログラム（児童発達支援）	作成日	2025 年	3 月	10 日

法人（事業所）理念		・根拠のある安全性　・謙虚さ　・積極性　・効率性　・自分らしさ
支援方針		感覚統合療法を取り入れた預かり型の事業所です。 子どもたちの「あそび」の中から就学に向けたADLの向上、順番やルール、また発達において重要とされている見立てあそびなどのスキルを促しています。 サイバーホイールやボルダリング、ダイゴナルエアーポリンなど大型遊具を使用し、家ではできない粗大運動の取り組みから身体を動かす楽しさを学び、集団活動の参加につなげていきます。 土・祝・長期休みはレスパイトケアとして、戸外活動をメインに長時間の預かりを行っています。
営業時間		平日　10 時　0 分から　19 時　0 分まで 土・祝　9 時　0 分から　18 時　0 分まで 送迎実施の有無：あり
		支　援　内　容
本人支援	健康・生活	・健康状態の把握→来所時の検温や手洗い、自宅の様子の把握、園の様子の把握、利用時の様子を観察 ・ADLの向上→来所時の手順表の視覚化、整理整頓の支援、食事、排泄、更衣、準備、片付け
	運動・感覚	・基礎感覚の入力→サイバーホイール、ボルダリング、エアーポリン、ブランコ、セラパテ、粘土などの遊び ・スキルアップ課題→スプーンやフォークの持ち方、独歩、ボタンなど特定の動作に対しての評価とアプローチ ・複数の感覚情報処理機能の向上→トランポリン＋〇〇　平均台＋〇〇など2つのことを同時に行う活動を行う ・感覚調整に対する取り組み→感覚刺激が強くなりすぎないように調整を行い遊びに繋げる
	認知・行動	・児童を知るため→発達と障がい特性の理解 ・安心して行動が行えるように→1日のスケジュールの提示を行い、先の見通しを持ってもらう ・適応的行動を行えるように→その児童にとって心地の良い感覚刺激の入力を行い、情緒の安定を促してから行動する ・他者の気持ちの理解→支援者のその時の気持ちや行動を代弁する（セルフトーク）
	言語 コミュニケーション	・ジェスチャーや喃語でのやり取り→相手の身振り手振りや喃語をそのまま真似る（ミラリング・モニタリング） ・気持ちの表出→利用者のその時の気持ちや行動を代弁する（パラレルトーク） ・正しい言葉の獲得→言い誤りを指摘せずに正しい言葉で返す（リフレクティング） ・単語から２語文、３語文へ→発した言葉に対して意味的、文法的に広げて返す（エキスパンション） ・新しい言語の獲得→新しい言葉のモデルを示す（モデリング）
	人間関係 社会性	・他者との関わり→感覚の過敏さに配慮しつつ、職員や異年齢の児童との活動を促す ・他者との協力→一つのことを他者と行う活動を促す ・社会的なルールの理解→戸外プログラムでの経験
家族支援		・児童の発達や学校生活に関する助言や相談 ・保護者のレスパイトケアや就労状況に合わせた延長支援の実施
移行支援		・事業所で得たスキルを生活に反映できるように支援をおこなう ・希望の進路先を見据えた本人と保護者等との相談を実施
地域支援・地域連携		スムーズな生活を送れるように通学先の担当者や併用している事業所の担当者、相談支援事業者との連携や連絡の実施
職員の質の向上		・事業所運営に係る資格取得研修・年間研修計画に基づいた社内研修 ・専門知識を深める社外研修への参加
主な行事等		土・祝や長期休暇にはレスパイトプログラムの導入 季節に合わせたイベント